

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-203015

(43)公開日 平成7年(1995)8月4日

(51)IntCl. <sup>8</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 M 1/66	A			
H 0 4 Q 7/38				
H 0 4 M 1/00	N			
		7605-5K	H 0 4 B 7/ 26	1 0 9 S
審査請求 未請求 請求項の数6 F D (全 9 頁)				

(21)出願番号 特願平5-349077

(22)出願日 平成5年(1993)12月28日

(71)出願人 000001443

カシオ計算機株式会社

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号

(72)発明者 甫足 博信

東京都羽村市栄町3丁目2番1号 カシオ

計算機株式会社羽村技術センター内

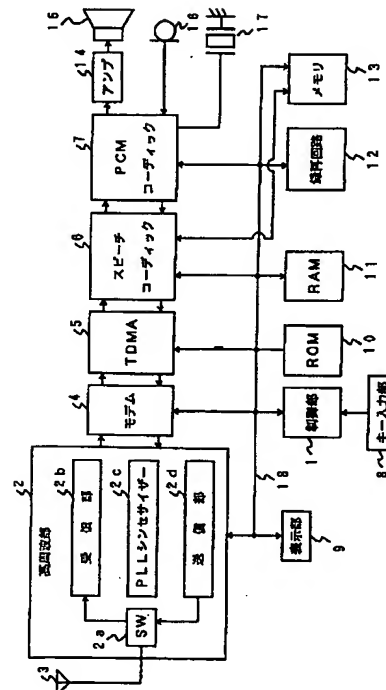
(74)代理人 弁理士 鈴江 武彦

## (54)【発明の名称】 携帯電話装置

## (57)【要約】

【目的】複数人で使用できるとともに、各使用者占有の各種受発信に関するモードおよび各使用者占有の各種受発信に関するデータを有し、かつこれら各使用者自身の各種モードおよび各使用者自身の各種データの機密保持が行なえる携帯電話装置を提供する。

【構成】複数の使用者によりキー入力部8より入力されたID番号をRAM11に記憶し、その後使用者によりキー入力部8より入力された個人モードの設定、続いてキー入力部8より記録を希望する個人データの設定をRAM11に記憶し、発信の際に使用者によりキー入力部8より入力されたID番号とRAM11に記憶されているID番号を照合し、その照合結果により一致した場合個人モードの機能および前記個人データの記録を実行し、一致しなかった場合標準モードの機能を実行する。



BEST AVAILABLE COPY

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数の個人識別符号を記憶する識別符号記憶手段と、

前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ各種の機能を設定する機能設定手段と、

前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ発着信に関する個人データを記録する個人データ記録手段と、  
発信の際に入力される個人識別符号と前記識別符号記憶手段に記憶された個人識別符号を照合する識別符号照合手段と、

前記識別符号照合手段による照合結果より前記機能設定手段に設定された各種機能を実行するとともに前記個人データ記録手段に個人データを記録させる制御手段を具備したことを特徴とする携帯電話装置。

【請求項2】 複数の個人識別符号を記憶する識別符号記憶手段と、

前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ各種の機能を設定する機能設定手段と、

発信の際に入力される個人識別符号と前記識別符号記憶手段に記憶された個人識別符号を照合する識別符号照合手段と、

前記識別符号照合手段による照合結果より前記機能設定手段に設定された各種機能を実行する制御手段を具備したことを特徴とする携帯電話装置。

【請求項3】 複数の個人識別符号を記憶する識別符号記憶手段と、

前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ発着信に関する個人データを記録する個人データ記録手段と、

発信の際に入力される個人識別符号と前記識別符号記憶手段に記憶された個人識別符号を照合する識別符号照合手段と、

前記識別符号照合手段による照合結果より前記個人データ記録手段に個人データを記録させる制御手段を具備したことを特徴とする携帯電話装置。

【請求項4】 複数の個人識別符号を記憶する識別符号記憶手段と、

前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ各種の機能を設定する機能設定手段と、

前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ発着信に関する個人データを記録する個人データ記録手段と、

前記複数の個人識別符号に対し共通の機能を設定した標準機能設定手段と、

発信の際に入力された各個人識別符号と前記識別符号記憶手段に記憶された識別符号を照合する識別符号照合手段と、

前記識別符号照合手段による照合結果より前記機能設定手段に設定された機能を実行するとともに前記個人データ記録手段に個人データを記録または前記標準機能設定手段の機能を実行する制御手段を具備したことを特徴とする携帯電話装置。

【請求項5】 複数の個人識別符号を記憶する識別符号記憶手段と、

前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ各種の機能を設定する機能設定手段と、

前記複数の個人識別符号それぞれに対し共通の機能を設定した標準機能設定手段と、

発信の際に入力された各個人識別符号と前記識別符号記憶手段に記憶された識別符号を照合する識別符号照合手段と、

10 前記識別符号照合手段による照合結果より前記機能設定手段に設定された機能または前記標準機能設定手段の機能を実行する制御手段を具備したことを特徴とする携帯電話装置。

【請求項6】 発着信に関する個人データを記憶する個人データ記憶手段と、

個人識別符号を入力する入力手段と、

この入力手段より入力された識別符号により前記個人データ記憶手段に記憶された個人データを参照不可能にする制御手段を具備したことを特徴とする携帯電話装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、携帯電話装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】近年、携帯電話装置の需要が急速に高まり普及しつつある。現状では、会社の営業部門等で使用されている例が見受けられ、屋外においても緊急の連絡等に使用できる等有効に利用されている。

【0003】ところが、上述したような会社等の業務で使用する場合でも、各部署に一台等、複数人で一台を使用する状況がほとんどであり、一人が一台専用するまでには至っていない。というのも、携帯電話装置の使用料金や機体価格が高額であるのが大きな理由である。

【0004】しかし、携帯電話装置はそもそも会社等のみならず、プライベートでも一人一台で使用するのをコンセプトに開発されており、個人で使用するための種々の機能を搭載したものが数多く出回っている。例えば電話帳データメモリダイヤルという機能は一般的なものであり、利用頻度の高い電話番号をダイヤルメモリとして登録しておくことで、簡単な操作でその電話番号先に電話がかけられるものである。また、リダイヤルデータ、通話時間データ、通話料金データ、発着信記録データ等のプライベートに係わるデータを記憶する機能等も見受けられる。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】上述したように、携帯電話端末は本来一人一台で使用するものにもかかわらず、複数人で一台を使用するとすると、多々弊害が生ずる。

50 【0006】例えば、ある使用者専用の各種モード、例

を示すと着信音量の設定や特定者からの受信に対する着信音種の設定等を他者がそのまま使用するとすると適切でなかったり、留守番電話機能において、ある使用者専用の応答メッセージでは他者が使用できないといった不都合が生じる。

【0007】上述したような不都合を考慮して、使用者が暗証番号を設定することでその使用者専用のモードを使用できるといった機能が考えられたが、この場合他者に貸与する際にそのモードを解除しなければならない。また、複数人で使用している場合に、ある個人専用の各種データを他者に見られたくないという状況も十分考えられるが、現状ではそのために暗証番号を利用したシークレットモードをある特定の一人が使用できるのみで、複数人が各々シークレットモードを使用できるまでには至っていない。

【0008】また、上述したシークレットモードにおいては、各種データは相当する暗証番号が入力されない限り他者に参照されることはないが、シークレットモードの使用者自身がシークレットモードにおいて各種データの参照、または変更等を行なう際にもわざわざ暗証番号を入力しなければならず、大変煩わしいものである。というも、他者に貸与する際にのみ何らかの処置を行なう機能を有していれば事足りるからである。

【0009】本発明は、上記のような事情に鑑みてなされたもので、複数人で使用できるとともに、各使用者占有の各種着信に関するモードおよび各使用者占有の各種発着信に関するデータ記録機能を有し、かつこれら各使用者自身の各種モードおよび各使用者自身の各種データの機密保持が行なえる携帯電話装置を提供することを目的とする。

【0010】また、本発明は、複数人で使用できるとともに、各種受発信に関するデータ記録機能を有し、容易に各使用者自身の各種データの機密保持が行なえる携帯電話装置を提供することを目的とする。

【0011】

【課題を解決するための手段】本発明は、複数の個人識別符号を記憶する識別符号記憶手段と、前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ各種の機能を設定する機能設定手段と、前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ発着信に関する個人データを記録する個人データ記録手段と、発信の際に入力される個人識別符号と前記識別符号記憶手段に記憶された個人識別符号を照合する識別符号照合手段と、前記識別符号照合手段による照合結果より前記機能設定手段に設定された各種機能を実行するとともに前記個人データ記録手段に個人データを記録させる制御手段により構成されている。

【0012】本発明は、複数の個人識別符号を記憶する識別符号記憶手段と、前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ各種の機能を設定する機能設定手段と、発信の際に入力される個人識別符号と前記識別符号記憶手段に記

憶された個人識別符号を照合する識別符号照合手段と、前記識別符号照合手段による照合結果より前記機能設定手段に設定された各種機能を実行する制御手段により構成されている。

【0013】本発明は、複数の個人識別符号を記憶する識別符号記憶手段と、前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ発着信に関する個人データを記録する個人データ記録手段と、発信の際に入力される個人識別符号と前記識別符号記憶手段に記憶された個人識別符号を照合する識別符号照合手段と、前記識別符号照合手段による照合結果より前記個人データ記録手段に個人データを記録させる制御手段により構成されている。

【0014】本発明は、複数の個人識別符号を記憶する識別符号記憶手段と、前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ各種の機能を設定する機能設定手段と、前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ発着信に関する個人データを記録する個人データ記録手段と、前記複数の個人識別符号に対し共通の機能を設定した標準機能設定手段と、発信の際に入力された各個人識別符号と前記識別符号記憶手段に記憶された識別符号を照合する識別符号照合手段と、前記識別符号照合手段による照合結果より前記機能設定手段に設定された機能を実行するとともに前記個人データ記録手段に個人データを記録または前記標準機能設定手段の機能を実行する制御手段により構成されている。

【0015】本発明は、複数の個人識別符号を記憶する識別符号記憶手段と、前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ各種の機能を設定する機能設定手段と、前記複数の個人識別符号それぞれに対し共通の機能を設定した標準機能設定手段と、発信の際に入力された各個人識別符号と前記識別符号記憶手段に記憶された識別符号を照合する識別符号照合手段と、前記識別符号照合手段による照合結果より前記機能設定手段に設定された機能または前記標準機能設定手段の機能を実行する制御手段により構成されている。

【0016】本発明は、発着信に関する個人データを記憶する個人データ記憶手段と、個人識別符号を入力する入力手段と、この入力手段より入力された識別符号により前記個人データ記憶手段に記憶された個人データを参照不可能にする制御手段により構成されている。

【0017】

【作用】この結果、本発明によれば、複数の個人識別符号を記憶し、前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ各種の機能を機能設定手段により設定し、かつ前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ発着信に関する個人データを個人データ記録手段により記憶し、発信の際に入力される個人識別符号と上記に示した記憶された個人識別符号を照合し、その照合結果より前記機能設定手段により設定された各種機能を実行するとともに前記個人データ記録手段に個人データを記録させる制御を行なうように

したので、使用者個有の識別符号を使用することで使用者毎に個有の着信機能を実行できるとともに、発着信時の個人データを記録することができる。

【0018】本発明によれば、複数の個人識別符号を記憶し、前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ各種の機能を機能設定手段により設定し、発信の際に入力される個人識別符号と上記に示した記憶された個人識別符号を照合し、その照合結果より前記機能設定手段により設定された各種機能を実行する制御を行なうようにしたので、使用者個有の識別符号を使用することで使用者毎に個有の着信機能を実行できる。

【0019】本発明によれば、複数の個人識別符号を記憶し、前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ発着信に関する個人データを個人データ記録手段により記憶し、発信の際に入力される個人識別符号と上記に示した記憶された個人識別符号を照合し、その照合結果より前記個人データ記録手段で個人データを記録させる制御を行なうようにしたので、使用者個有の識別符号を使用することで使用者毎に発着信時の個人データを記録することができる。

【0020】本発明によれば、複数の個人識別符号を記憶し、前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ各種の機能を機能設定手段により設定し、前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ発着信に関する個人データを個人データ記録手段により記録し、前記複数の個人識別符号に対して共通の機能を設定した標準機能設定手段を有し、発信の際に入力された各個人識別符号と上記に示した記憶された個人識別符号を照合し、その照合結果より前記機能設定手段に設定された機能を実行するとともに前記個人データ記録手段に個人データを記録、または前記標準機能設定手段の機能を実行する制御を行なうようにしたので、使用者個有の識別符号の照合結果により標準着信機能または使用者毎の個有の着信機能を選択的に実行できるとともに、発着信時の個人データを記録することができる。

【0021】本発明によれば、複数の個人識別符号を記憶し、前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ各種の機能を機能設定手段により設定し、前記複数の個人識別符号に対して共通の機能を設定した標準機能設定手段を有し、発信の際に入力された各個人識別符号と上記に示した記憶された個人識別符号を照合し、その照合結果より前記機能設定手段に設定された機能または前記標準機能設定手段の機能を実行する制御を行なうようにしたので、使用者個有の識別符号の照合結果により標準着信機能または使用者毎の個有の着信機能を選択的に実行できる。

【0022】本発明によれば、発着信に関する個人データを個人データ記憶手段により記憶し、個人識別符号を入力し、この入力された識別符号により前記個人データ記憶手段に記憶された個人データを参照不可能にする制

御を行なうようにしたので、使用者個有の発着信データの機密保持を任意に行なうことができる。

【0023】

【実施例】以下、本発明の実施例を図面に従い説明する。

【0024】（第1実施例）図1は、第1実施例における携帯電話装置の概略回路構成を示している。

【0025】同図において、1は制御部で、この制御部1にはバス18により高周波部2、モデム4、TDMA5、スピーチコーデック6、PCMコーデック7、表示部9、ROM10、RAM11、録音再生回路12、メモリ13がそれぞれ接続されている。

【0026】制御部1は、所定のプロトコルに従い、携帯電話装置全体の動作制御を行なうもので、通信制御、表示制御等の各種制御の他に、本発明の特徴である各種機能を設定する機能設定制御、個人データを更新する更新制御、識別符号を照合する照合制御及び共通機能を設定する標準機能設定制御等を実行する。

【0027】そして制御部1には、キー入力部8が接続されている。キー入力部8は、発信の際の電話番号や、ID番号などを入力するためのテンキー、個人モードを設定するためのキーや個人データ記録の設定のためのキーなどを有している。

【0028】高周波部2は、周波数変換処理を行なうもので、アンテナスイッチ2a、受信部2b、PLLシンセサイザ2cおよび送信部2dを有し、アンテナスイッチ2aをアンテナ3に接続している。そしてアンテナスイッチ2aは受信部2bまたは送信部2dを選択することにより、信号を送信／受信に振り分ける。

【0029】受信部2bは、アンテナ3からアンテナスイッチ2aを介して入力された信号を図示しない2段のミキサーにより受信中間周波数信号に周波数変換する。送信部2dは、モデム4から入力された $\pi/4$ QPSK (Quadrature Phase Shift Keying) 方式の変調波を図示しないミキサーで周波数変換し、アンテナスイッチ2aを介してアンテナ3から輻射する。PLLシンセサイザ2cは、受信部2bおよび送信部2dでの周波数変換のための局部発振をする。

【0030】高周波部2の受信部2bおよび送信部2dは、それぞれモデム4に接続されている。モデム4は、 $\pi/4$ QPSK方式の変復調処理を行なうもので、受信の場合、高周波部2における受信部2bからの受信中間周波信号を復調し、同相成分データおよび直交成分データに分離し、データ列としてTDMA5へ転送し、また送信の場合、TDMA5から転送されてきたデータから同相成分データおよび直交成分データを作成し、 $\pi/4$ QPSK方式の変調を行ない、高周波部2における送信部2dへ出力する。

【0031】モデム4には、TDMA5が接続されてい

る。TDMA 5は、フレーム同期およびスロットのフォーマット処理を行なうもので、受信の場合、モデム4から送られてくるデータ（フレーム）から所定タイミングでスロットを取り出し、スクランブル等を解除し、このスロットのフォーマットから構成データを取り出し、制御データを制御部1へ送り、音声データをスピーチコーデック6に転送し、また送信の場合、スピーチコーデック6から転送されてくる音声データに制御部1からの制御データを付加してスロットを作成し、スクランブル等をかけて所定タイミングで前記スロットをフレームに挿入し、モデム4に送出する。

【0032】TDMA 5には、スピーチコーデック6が接続されている。スピーチコーデック6は、デジタルデータの圧縮、伸張処理を行なうもので、受信の場合、TDMA 5から送られてきたADPCM音声信号をPCM音声信号に復号化することにより伸張して、PCMコーデック7に出力し、また送信の場合、PCMコーデック7から送られてきたPCM音声信号をADPCM音声信号に符号化することにより圧縮してTDMA 5に出力している。

【0033】スピーチコーデック6には、PCMコーデック7と後述するメモリ13が接続されている。PCMコーデック7は、音声信号のアナログ／デジタル変換処理を行なうもので、受信の場合、スピーチコーデック6から送られてくるPCM音声信号をD/A変換して、そのアナログ信号をアンプ14に出力してスピーカ15を駆動し、また送信の場合、マイク16から入力されたアナログ音声信号をA/D変換して、そのPCM音声信号をスピーチコーデック6に出力する。また、スピーカ15の駆動の際のボリューム制御や、リング信号やトーン信号の制御等も行なう。

【0034】PCMコーデック7には、アンプ14を介して受話側スピーカ15が接続され、また送話側マイク16とリング17が接続されている。

【0035】表示部9は、個人データおよび入力されたID番号などを表示するものである。ROM10は、制御部1の動作制御を行なうための制御プログラムが記憶されており、RAM11は、制御部1の制御で扱われるデータを一時記憶する他に、使用者により入力されるID番号が記憶され、さらにキー入力部8より設定される各種個人モード、標準モードおよび個人データ記録の各設定条件を記憶するものである。メモリ13には、携帯電話装置の留守番電話機能時に、スピーチコーデック6から送られてくる受信した発呼者のメッセージに相当するPCM音声信号が録音されるとともに、各種個人データ記録などが記憶される。録音再生回路12は、制御部1の制御によりメモリ13に前記発呼者のメッセージを録音する制御、また再生する制御を行なう。

【0036】なお、上記構成では、RAM11及びメモリ13を固定としたが、これに限定されることなく、例

えば各個人毎に着脱可能なメモリカードにRAM11及びメモリ13の内容を記憶しておき、そのメモリカードをセットすることにより制御部1が、カード内の各使用者に対応するID番号読み出し、各モード等をセットするようにしても良い。

【0037】次に、以上のように構成された携帯電話の動作を図2乃至図4に示したフローチャートを基に説明する。

【0038】まず、本実施例における携帯電話において、使用者によりID番号を登録する手順を図2に示すフローチャートに従い説明する。

【0039】初めに、ステップ101で使用者によりキー入力部8におけるID登録のための所定のキーが押下され、続いてステップ102で使用者によりキー入力部8のテンキーより任意のID番号が入力されると、制御部1はステップ103で表示部9に前記ID番号を表示するとともに、表示部9に前記ID番号を登録して良いか否かの確認を示す旨のメッセージを表示する。

【0040】そして、ステップ104で使用者により前記ID番号の登録が許容され、キー入力部8より所定のキーが操作されると、ステップ105で前記ID番号がRAM11に記憶される。これによりRAM11には同時にID番号に対応する個人モード及び個人データの領域が確保される。また、ステップ104で使用者により前記ID番号の登録が許容されない場合、ステップ102に戻り、再びID番号の入力状態となる。

【0041】次に、各種個人モードの設定および各種個人データの記録の設定手順を図3に示したフローチャートを基に説明する。

【0042】上述したID番号の登録の手順の後、ステップ201で使用者によりキー入力部8より個人モードを設定するためのキーが操作されると、ステップ202で個人モード設定内容が表示部9に表示される。ここでは、個人モード設定として、“着信音量”、“着信音種”、“留守番モード”が表示部9に表示される。

【0043】そして、表示部9の表示内容にしたがって所望する個人モードを設定するとともに、そのモード内容をRAM11のID番号に対応する個人モード領域に記憶する。例えば“着信音量”を指定した場合は、リング17の着信音の音量とスピーカ15の受話音量の設定を行なう。例えば、耳の遠い人であれば、着信音や受話音量は大きめに設定する必要があるであろう。また“着信音種”を指定した場合は、ある特定者からの着信の際に音色等を変化させる設定を行なう。また“留守番モード”を指定した場合は、留守番電話機能を用いるか否かの設定を行なう。そして、これらの結果はRAM11に記憶される。

【0044】ステップ202における個人モード設定が終了し、続いてステップ203で使用者によりキー入力部8より個人データ記録機能を設定するためのキーが操

作されると、ステップ204で表示部9に各個人データを記録するか否かの入力を促すメッセージが表示される。ここでは、個人データとして“電話帳データ記録”、“通話料金データ記録”、“着信番号記録”、“リダイヤルデータ記録”、“発信時刻記録”、“着信時刻記録”が表示部9に表示され、これらのうちから記録を希望するものを選択する。

【0045】ここで、“電話帳データ記録”とは、発信毎にその電話番号の使用頻度を記録する機能であり、通常この電話番号に対応して名前、住所等が記録されている。“通話料金データ記録”とは、一通話終了後にその通話料金を記録する機能であり、“着信番号記録”とは、一着信があった際にその電話番号を記録する機能であり、“リダイヤルデータ記録”とは、発信を行なった電話番号を記録しておき、キー入力部8における所定のキーを操作することにより、リダイヤルを行なうための機能であり、“発信時刻記録”とは、発信を行なった時刻を記録する機能であり、“着信時刻記録”とは、着信のあった時刻を記録する機能である。

【0046】一方、ステップ201で使用者によりキー入力部8より個人モードを設定しない場合は、ステップ205における標準モード設定となる。

【0047】この標準モードでは、ステップ202と同様にして、今度は不特定の使用者のための標準モードとして、“着信音量”、“着信音種”、“留守番モード”を指示するとともに、そのモード内容を設定するようになる。

【0048】次に、実際に通話を行なう手順を図4に示すフローチャートに従い説明する。

【0049】まず、ステップ301で使用者がキー入力部8より自身のID番号を入力すると制御部1は、ステップ302でRAM11に予め記憶されたID番号とを照合し、一致すればRAM11に記憶された前記ID番号に付随する個人モードを読み出し実行する。

【0050】続いてステップ305で使用者によりキー入力部8のテンキーより電話番号を入力することによりステップ306の通話処理に移行される。

【0051】ステップ306の通話処理では、図1において、送話の場合、使用者がマイク16より音声を入力すると、そのアナログ音声信号はPCMコーデック7においてA/D変換され、そのPCM音声信号がスピーチコーデック6に出力される。スピーチコーデック6では、前記PCM音声信号をADPCM音声信号に符号化することにより圧縮してTDMA5に出力する。TDMA5では、スピーチコーデック6から転送されてくる音声データに制御部1からの制御データを付加してスロットを作成し、スクランブル等をかけて所定タイミングで前記スロットをフレームに挿入し、モデム4に送出する。モデム4では、TDMA5から転送されてきたデータから同相成分データおよび直交成分データを作成し、

$\pi/4$  QPSK方式の変調を行ない、高周波部2における送信部2dへ出力し、アンテナスイッチ2aを介しアンテナ3より基地局に向けて送信信号が発信される。

【0052】一方、基地局からの受話の動作は上記に示した手順を逆行した手順となり、アンプ14を通じてスピーカ15より音声が発生することとなる。

【0053】その後、通話が終了すると、ステップ307で前記個人モードにおける個人データ、即ち“電話帳データ”（使用頻度）、“通話料金データ”、“発信番号”、“リダイヤルデータ”、“発信時刻”がメモリ13に記憶されるとともに、ステップ308でこれら個人データが表示部9に表示される。

【0054】なおステップ301でID番号が入力されない場合、ステップ305の通常のダイヤル処理に移る。またステップ301でID番号が入力されたものの、ステップ302で一致するID番号が検索されないと、ステップ304における標準モードが実行される。

【0055】従って、このような実施例によれば、複数の使用者によりキー入力部8より入力されたID番号をRAM11に記憶し、その後使用者によりキー入力部8より入力された個人モードの設定、続いてキー入力部8より記録を希望する個人データの設定をRAM11に記憶し、発信の際に使用者によりキー入力部8より入力されたID番号とRAM11に記憶されているID番号を照合し、その照合結果により一致した場合個人モードの機能および前記個人データの記録を実行し、一致しなかった場合標準モードの機能を実行するようにしたので、複数人で共用しているにかかわらず、使用者毎に他者に自身の個人モードおよび個人データが知られるのを防止でき、あたかも個人専用の携帯電話装置として使用できるとともに、一般の携帯電話装置と同様全ての使用者が共通の機能で利用できる。

【0056】（第2実施例）次に、本発明の第2実施例を説明するが、この場合携帯電話装置の回路構成は図1と同様なので、ここでの説明を省略し、その動作について図5に示したフローチャートを基に説明する。

【0057】まず、ステップ401で使用者によりキー入力部8のテンキーより電話番号を入力することにより通話処理に移行される。

【0058】ステップ402の通話処理については第1実施例において示したものと同様であるので省略する。

【0059】その後通話が終了すると、ステップ403で前記個人モードにおける個人データ、即ち“電話帳データ”（使用頻度）、“通話料金データ”、“発信番号”、“リダイヤルデータ”、“発信時刻”がメモリ13に記憶されるとともに、ステップ404でこれら個人データが表示部9に表示される。

【0060】続いてステップ405で、制御部1は表示部9にこれら個人データをシークレットにするか否かを示す旨のメッセージを表示する。ここでステップ406

で使用者によりキー入力部8より任意のパスワード(例えば数字4桁、文字8桁など)を入力し、続いてステップ407でこのパスワードを表示部9に表示することによりステップ408のデータシークレットモードとなる。

【0061】なお、一度ステップ408におけるデータシークレットモードに入った個人データは、ステップ406で入力したパスワードと同じものを入力しない限り参照できなくなる。

【0062】従って本実施例によれば、使用者がキー入力部8よりダイヤル操作することにより発信を行ない、通話終了後その通話に関する個人データをメモリ13に記憶し、前記個人データを表示部9に表示し、次に表示部9にこれら個人データをシークレットにするか否かを示す旨のメッセージを表示し、使用者によりキー入力部8よりパスワードを入力することにより相当する個人データにつきデータシークレットモードを設定できるようにしたので、携帯電話装置を他人に貸与する直前に自分の個人データをデータシークレットモードにすることが可能になり、容易な操作でプライバシーの保護が図れることとなる。

【0063】なお、本発明は上記実施例のみに限定されず、要旨を変更しない範囲で適時変形して実施できる。

【0064】例えば、上述した各種入力をキー入力においてでなく、音声入力により行なうことも考えられる。

【0065】

【発明の効果】本発明によれば、複数の個人識別符号を記憶し、前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ各種の機能を機能設定手段により設定し、かつ前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ発信に関する個人データを個人データ記録手段により記憶し、発信の際に入力される個人識別符号と上記に示した記憶された個人識別符号を照合し、その照合結果より前記機能設定手段により設定された各種機能を実行するとともに前記個人データ記録手段に個人データを記録させる制御を行なうようにしたので、使用者個々の識別符号を使用することで使用者毎に個々の着信機能を実行できるとともに、発信時の個人データを記録することができ、これにより一台の携帯電話装置を複数人で使用できるとともに、使用者個々の着信機能および受信データの機密を保持でき、あたかも個人専用の携帯電話装置として使用できる。

【0066】本発明によれば、複数の個人識別符号を記憶し、前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ各種の機能を機能設定手段により設定し、発信の際に入力される個人識別符号と上記に示した記憶された個人識別符号を照合し、その照合結果より前記機能設定手段により設定された各種機能を実行する制御を行なうようにしたので、使用者個々の識別符号を使用することで使用者毎に個々の着信機能を実行でき、これにより一台の携帯電話装置を複数人で使用できるとともに、使用者個々の着信

機能の機密を保持でき、あたかも個人専用の携帯電話装置として使用できる。

【0067】本発明によれば、複数の個人識別符号を記憶し、前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ発信に関する個人データを個人データ記録手段により記憶し、発信の際に入力される個人識別符号と上記に示した記憶された個人識別符号を照合し、その照合結果より前記個人データ記録手段で個人データを記録させる制御を行なうようにしたので、使用者個々の識別符号を使用することで使用者毎に発信時の個人データを記録することができ、これにより一台の携帯電話装置を複数人で使用できるとともに、使用者個々の受信データの機密を保持でき、あたかも個人専用の携帯電話装置として使用できる。

【0068】本発明によれば、複数の個人識別符号を記憶し、前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ各種の機能を機能設定手段により設定し、前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ発信に関する個人データを個人データ記録手段により記録し、前記複数の個人識別符号に対して共通の機能を設定した標準機能設定手段を有し、発信の際に入力された各個人識別符号と上記に示した記憶された個人識別符号を照合し、その照合結果より前記機能設定手段に設定された機能を実行するとともに前記個人データ記録手段に個人データを記録、または前記標準機能設定手段の機能を実行する制御を行なうようにしたので、使用者個々の識別符号の照合結果により標準着信機能または使用者毎の個々の着信機能を選択的に実行できるとともに、発信時の個人データを記録することができ、これにより一台の携帯電話装置を複数人で使用できるとともに、使用者個々の着信機能および受信データの機密を保持でき、あたかも個人専用の携帯電話装置として使用できるとともに、一般の携帯電話装置と同様全ての使用者が共通の機能で利用できる。

【0069】本発明によれば、複数の個人識別符号を記憶し、前記複数の個人識別符号に対しそれぞれ各種の機能を機能設定手段により設定し、前記複数の個人識別符号に対して共通の機能を設定した標準機能設定手段を有し、発信の際に入力された各個人識別符号と上記に示した記憶された個人識別符号を照合し、その照合結果より前記機能設定手段に設定された機能または前記標準機能設定手段の機能を実行する制御を行なうようにしたので、使用者個々の識別符号の照合結果により標準着信機能または使用者毎の個々の着信機能を選択的に実行でき、これにより一台の携帯電話装置を複数人で使用できるとともに、使用者個々の着信機能の機密を保持でき、あたかも個人専用の携帯電話装置として使用できるとともに、一般の携帯電話装置と同様全ての使用者が共通の機能で利用できる。

【0070】本発明によれば、発信に関する個人データを個人データ記憶手段により記憶し、個人識別符号を



入力し、この入力された識別符号により前記個人データ記憶手段に記憶された個人データを参照不可能にする制御を行なうようにしたので、使用者個有の発着信データの機密保持を任意に行なうことができ、これにより一台の携帯電話装置を複数人で使用できるとともに、使用者個有の受発信データの機密を保持でき、あたかも個人専用の携帯電話装置として使用できるとともに、一般の携帯電話装置と同様全ての使用者が共通の機能で利用できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例における携帯電話装置の概略回路構成を示すブロック図。

【図2】第1の実施例における携帯電話装置の動作を示したフローチャート。

【図3】第1の実施例における携帯電話装置の動作を示

したフローチャート。

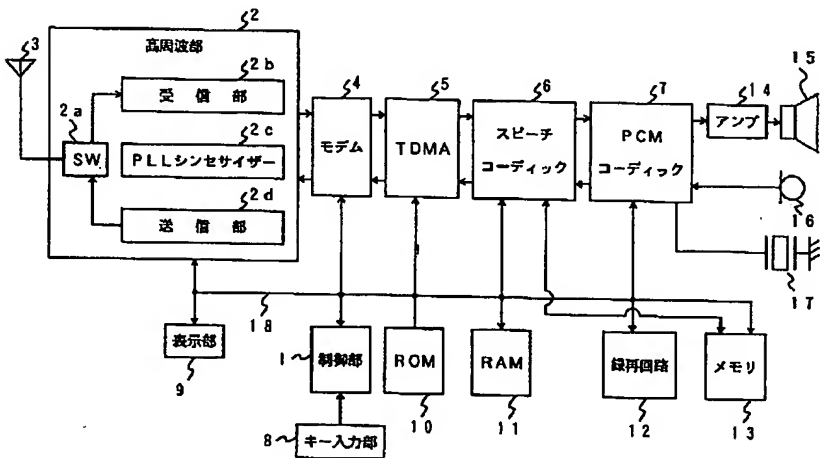
【図4】第1の実施例における携帯電話装置の動作を示したフローチャート。

【図5】第2の実施例における携帯電話装置の動作を示したフローチャート。

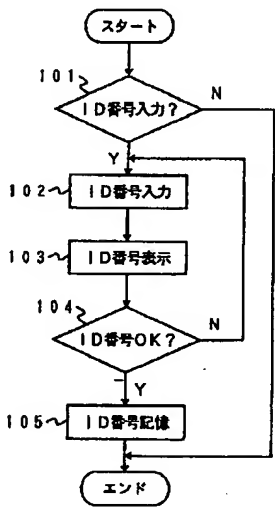
【符号の説明】

1…制御部、2…高周波部、2a…アンテナスイッチ、2b…受信部、2c…PLLシンセサイザ、2d…送信部、3…アンテナ、4…モデム、5…TDMA、6…スピーチコーデック、7…PCMコーデック、8…キー入力部、9…表示部、10…ROM、11…RAM、12…録音再生回路、13…メモリ、14…アンプ、15…受話側スピーカ、16…送話側マイク、17…リング、18…バス。

【図1】

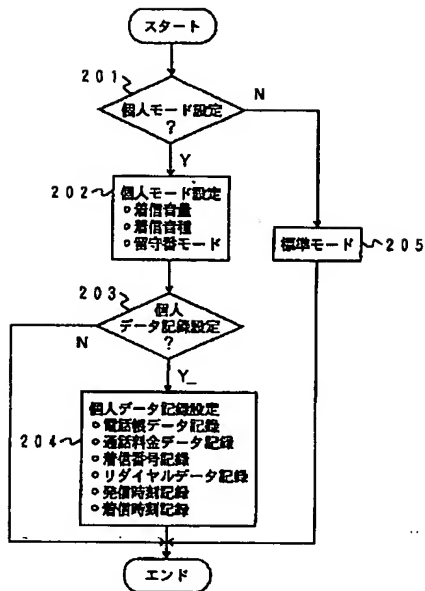


【図2】

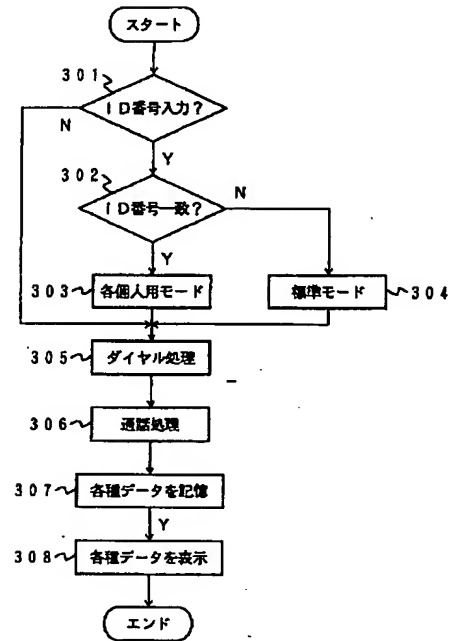




【図3】



【図4】



【図5】

